

明治学院大学能登半島地震復興支援ボランティア合同報告会 『関わる』のその先へ。



「2025年度冬季能登支援引率チーム」



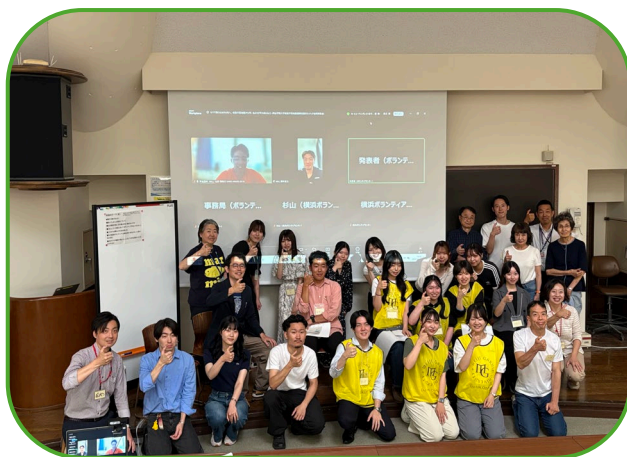
パフォーマンスから始まる
「のと部よこはま@明学」のおふたり



グループトーク後のファシリテーター
によるグループセッション

6月17日「明治学院大学能登半島地震復興支援ボランティア合同報告会『関わる』のその先へ。」が開催されました。

当日は「2025年度冬季能登支援引率チーム」の活動報告に続き、学生団体（「あなたのとなりに。-SBC-」「のと部よこはま@明学」「WILL」）による活動報告や、能登活動記録映像の上映会が行われました。その後、参加者も交えたグループトーク、各グループのファシリテーターによるトークセッションが行われ、能登とのつながりや支援のあり方について、学びを深める良い機会になりました。



参加者も交えた撮影会

【投稿者より】今回初めて参加しましたが、学生の皆さんの真摯な活動と能登への向き合い方に深く感動しました。震災から2年以上が経過した今、必要とされているのは力仕事というよりも、人との触れ合いなのだと改めて考えさせられました。支援に行った方々が「支援する、されるという関係ではなく、自分たちも多くのことを学び、与えられた」と話されていたことが印象に残りました。現地の方の「小さな幸せや、あたりまえの日常、人との結びつきに気づいた」という言葉にも心を動かされました。報告会の中で触れられていた「居場所」というテーマは、私自身が暮らす地域との関わり方についても改めて考えるきっかけとなりました。(17期平原由紀子)